

公益財団法人 大山健康財団
平成 26 年度事業報告書

〔 自 平成 26 年 4 月 1 日
至 平成 27 年 3 月 31 日 〕

I. 学術研究助成事業

本財団定款第 4 条第 1 項に規定される学術研究助成事業は、大学、研究所、病院などにおいて、感染症の基礎的あるいは臨床的研究を行っている者及び感染症に関する疫学的研究を行っている個人で、満 50 歳以下の者を対象とする研究助成金で、平成 26 年度（第 41 回）学術研究助成事業は次の日程により実施した。受贈者は下記の通りである。

- ・ 公募開始：平成 26 年 10 月 1 日 応募要領・申請書 197 通発信
当財団ホームページ（公益財団法人公益法人協会共同サイト）に応募要項を掲載した。
- ・ 公募締切：平成 26 年 11 月 30 日 応募数 58 件
（応募内訳 細菌学 42、寄生虫学 16）
- ・ 選考委員会：平成 27 年 1 月 26 日
- ・ 理事会決定：平成 27 年 2 月 20 日

【第 41 回学術研究助成金受贈者】（敬称略）

氏名	所属・役職	研究課題	金額(円)
いわたが しろう 岩永 史朗	三重大学大学院 医学系研究科 准教授	人工染色体技術を用いた熱帯熱マ ラリア原虫由来アルテミシニン耐 性遺伝子の同定	100万
おおつか たけと 大塚 岳人	ニューヨーク州立大学 バッファロー校 博士研究員 (新潟大学医学部より留学中)	肺炎球菌の Quorum-Sensing シス テムに対する阻害薬開発とバイオ フィルム関連難治性感染症への治 療応用	100万
さんじょうば ちず 三條場 千寿	東京大学大学院 農学生命科学研究科 助教	リーシュマニア症媒介昆虫、サン ショウバエの媒介能関連因子の決 定	100万
しもかわ ちかこ 下川 周子	理化学研究所 統合生命医科学研究センター 特別研究員	肥満細胞を起点とした腸管寄生線 虫に対する新規防御メカニズムの 解明	100万
たなか よしひこ 田中 芳彦	福岡歯科大学 機能生物化学講座 口腔歯学部 教授	歯周病原細菌による口腔感染 症の病態の解明と治療法の開 発	100万
とくはら だいすけ 徳原 大介	大阪市立大学大学院 医学研究科 講師	臍帯血を用いた新生児免疫の解明 を基盤とした、乳幼児の消化管感 染症に対する舌下粘膜ワクチンの 開発	100万

まるやま ふみと 丸山 史人	京都大学大学院 医学研究科 准教授	環境コレラ菌ゲノム動態から病原性を定義する	100万
よつりえ 四津 里英	国立駿河診療所 皮膚科 医長	コートジボワール共和国 Adzopé 地域における学童および伝統医療受診患者を対象としたハンセン病とブルーリ潰瘍診断に関する疫学的調査	100万
			800万

II. 顕彰事業

本財団の定款第4条第2項及び大山健康財団賞・大山激励賞選考規程第2条第1項・2項に基づき、平成26年度顕彰事業は下記の日程で実施し、審議の結果大山健康財団賞に川原尚行氏、大山激励賞に岩田雅裕氏が決定した。

平成27年3月19日（木）に霞ヶ関東海倶楽部において贈呈式を開催し大山健康財団賞には表彰状・副賞100万円・記念メダルを、大山激励賞には表彰状・副賞50万円を贈呈した。

- ・公募開始：平成26年10月1日 推薦依頼46通発送
当財団ホームページ（公益財団法人公益法人協会共同サイト）に推薦依頼を掲載した。
- ・公募締切：平成26年11月30日 推薦数：大山健康財団賞・大山激励賞 各3件
- ・選考委員会：平成27年1月22日
- ・理事会決定：平成27年2月20日

◇平成26年度（第41回）大山健康財団賞受賞者（敬称略）

○^{かわはら なおゆき}川原 尚行 NPO 法人／国際 NGO 法人 ロシナンテス 理事長
医師 医学博士

< 功労の内容 >

九州大学医学部大学院を修了後、外務省に入省され、タンザニア、スーダンに勤務された際、スーダンで病める患者を何とかしたいという強い思いを抱き、2005年外務省を退職され、スーダンでの医療活動を始められた。

2006年にはNPO法人ロシナンテスを設立されるや、年間3分の2はスーダンに滞在され無医村を中心とした巡回診療を行われるとともに、スーダン東部の村に診療所を立ち上げ、スーダン人の医療スタッフを配置して医療活動を続けられるなど、発展途上国での医療協力に多大なる貢献をされている。

◇平成26年度大山激励賞受賞者（敬称略）

○^{いわた まさひろ}岩田 雅裕 元 岸和田徳洲会病院顎顔面口腔外科部長・口腔インプラントセンター長
歯科医師 歯学博士

< 功労の内容 >

岡山大学病院の顎顔面口腔外科で年100回を超える手術の経験を積み、広島市民病院の歯科口腔外科部長として抜擢されたものの、日常の業務に疑問を持たれる中、2001年6月、カン

ボジア・シェムリアップ市の NGO 運営の小児病院見学を機に、数か月後には再訪問され手術の執刀を手掛けられて以来、移籍した岸和田徳洲会病院に勤める傍ら、年 4 回はカンボジアを訪れ、腫瘍の除去など 1200 件以上を無償で手術して来られた。

現在、同病院の顎顔面口腔外科部長を辞され、カンボジアに軸足を置いた活動を続けられており、発展途上国の医療協力に多大なる貢献をされている。

Ⅲ. 学術集会支援事業

本財団定款第 4 条第 3 項に基づき、平成 26 年 5 月 27 日開催の学術集会支援審査委員会及び同日開催の理事会において決定した下記の事業に支援した。

1. 第 28 回 Bacterial Adherence & Biofilm 学術集会に 30 万円供与した。同事務局より以下の報告があった。

開催月日：平成 26 年 7 月 9 日(水)

開催場所：都市センターホテル 5 階「オリオン」

会 長：松本哲哉先生（東京医科大学基礎医学系微生物学講座 主任教授）

本学術集会は細菌の接着およびバイオフィルムを主な領域としており、その研究成果を学術集会等の活動を利用して共有し深めていくことを目的とする集会である。平成 26 年度の学術集会は 85 名が出席され、関連領域における優秀な研究者による教育講演（2 題）、シンポジウム（6 題）、Meet the specialists（4 題）、ランチョンセミナー（1 題）、一般演題（10 題）が行なわれた。

2. 第 18 回国際ノートバイオロジーシンポジウム（International Symposium on Gnotobiology : ISG）に 50 万円供与した。事務局より以下の報告があった。

開催期間：平成 26 年 9 月 21 日～24 日

開催地：Park Inn Pribaltiyskaya Hotel

Korablestroiteley st., 199226,

St-Petersburg, Russian Federation

国際ノートバイオロジー学会(IAG)は、世界各国の無菌生物学研究者が、3 年毎に一堂に会する国際会議である。杏林大学医学部感染症学教室内に事務局をおき、日本、欧州、北米の IAG 会員を対象とした学会活動の運営管理を行っている。IAG の定期的な学術集会である第 18 回国際ノートバイオロジーシンポジウム（ISG）が、ロシア国サンクトペテルブルグ市において開催された。

日本からは 9 名の研究者が参加し、ベラルーシュ、ウクライナ、エストニアといったロシア近隣諸国をはじめ、フランス、オランダ、アメリカ、韓国からの参加者も含めて 100 名を超す研究者が一堂に会した。まず、ロシアの Suvorof 学会長が常在細菌叢研究の新しい知見についての講演を行い、Application of Gnotobiology Techniques to Scientific, Medical and Applicable Field というテーマのシンポジウムでは Theriault 教授（シカゴ大学）の無菌動物飼育室の最新設備の紹介や、Midtvedt 教授（カロリンスカ研究所）による宿主寄生対クロストーク、無菌生物学から学んだことというテーマの研究内容が紹介された。同時開催された Ecological Forum と合わせると、172 題の口演発表と 67 題のポスター発表が行われ、盛況のうちに終了した。そして、日本から参加した Nakata 博士（日本大学）が若手 Poster 発表優秀賞を受賞した。

また、本シンポジウムの母体組織である IAG（国際無菌学会）の Board Meeting が会期

中に行われ、神谷茂教授（杏林大学）が President に就任し、次回の ISG は 2017 年に日本で開催（会長：広島大学一戸辰夫教授）することが決定した。

IV. 年報作成

平成 24 年度第 39 回学術研究助成金受贈者の業績報告集（年報No.39）を作成した。

V. 寄附金

国際医学研究会（慶應義塾大学医学部学生組織）の第 37 次派遣団に寄附金 30 万円を供与した。同研究会より下記の報告があった。

派遣期間：平成 26 年 7 月 20 日～8 月 29 日

訪問国：ブラジル

団 長：竹内裕也先生（慶應義塾大学医学部外科学教室一般・消化器外科 准教授）

【活動内容】

ブラジルの下記地区を訪問し「医の原点」の実体験をした。

1. マナウス：マナウス市保健局の巡回診療船に同乗し、最上流の村まで一晩で一気に上り、そこから午前・午後に分けて少しずつ川を下りながら 8 ヲ所の無医村地区の巡回診療を行った。
2. クイアバ：先住民族であるシャバンテ族の村を EDS（Expedicionários da Saúde：健康の十字軍の意の非営利組織）の一員として本研究会史上初めて巡回診療に参加し、縦横数百キロ程の地域に点在するシャバンテ族の村々に事前に医師を派遣し、そこでトリアージ行い、その後、治療が必要な人を一箇所の村に集め、そこで実働 7 日間という期間で、手術や検査を一挙に行った。
3. ベレン：①アマゾニア日伯援護協会訪問、②アマゾニア病院訪問、③アマゾニア病院におけるメタボリックシンドローム調査、④トメアスー十字路アマゾニア病院におけるメタボリックシンドローム調査、⑤トメアスー総合農業協同組合表敬訪問、等を行った。
4. サンパウロ：①サンパウロ医師会訪問：Web カンファレンス形式で団長講演、②Emilio Ribas 病院見学、③サンタカーザ大学病院訪問：現地医学生と救急医療実習、④第 27 回日伯医学生会議開催、⑤サンパウロ州立大学（USP）訪問：USP の一般・消化器外科を訪問して団長講演を行った後、病院内を見学、⑥ブラジル保健省サンパウロ支局を訪問：HIV の現状聴取、等を行った。

VI. 贈呈式及び祝賀会

平成 26 年度学術研究助成金および大山健康財団賞・大山激励賞の贈呈式・祝賀会は下記の通り行った。

- ・開催日時 平成 27 年 3 月 19 日(木) 午前 11 時 30 分
- ・開催場所 霞が関ビル 35 階 霞ヶ関東海倶楽部

◇贈呈式

- ・学術研究助成金受贈者代表挨拶 田中芳彦
- ・大山健康財団賞受賞者挨拶 川原尚行
- ・大山激励賞受賞者挨拶 岩田雅裕
- ・記念講演 川原尚行

◇祝賀会：贈呈式終了後に開催

Ⅶ. 総務事項

『理事会』（平成26年度）

◇第5回理事会

（平成26年5月27日） 出席者 理事5名 監事2名 顧問1名

1. 「平成26年度学術集会支援事業における支援対象学術集会」の承認
2. 「平成25年度事業計画書（案）並びに正味財産増減予算書（案）」の追認
3. 「平成25年度事業報告書（案）」の承認
4. 「平成25年度決算報告書（案）」の承認
※平成25年度事業報告書（案）決算報告書（案）に対する監事の監査報告
5. 「定時評議員会の日時及び場所並びに議事に付すべき事項」の承認
6. その他報告事項

◇第6回理事会

（平成27年2月20日） 出席者 理事6名 監事2名

1. 「第41回学術研究助成金受贈者」の決定
2. 「第41回大山健康財団賞・平成26年度大山激励賞受賞者」の決定
3. 「平成27年度事業計画書（案）及び正味財産増減予算書（案）」の承認
4. 「第4回評議員会の日時及び場所並びに議事に付すべき事項」の承認
5. 顧問川名林治先生からの顧問辞任願いの承認
6. その他 報告事項

◇本財団顧問の佐々木正五先生が平成26年11月20日にご逝去された。享年98歳

『評議員会』（平成26年度）

◇第3回評議員会（定時評議員会）

（平成26年6月12日） 出席評議員7名 理事3名 監事2名

1. 「平成25年度事業計画書（案）並びに正味財産増減予算書（案）」の追認
2. 「平成25年度事業報告書（案）」の承認
3. 「平成25年度決算報告書（案）」の承認
※平成25年度事業報告書（案）決算報告書（案）に対する監事の監査報告
4. その他 報告事項

◇第4回評議員会

（平成27年3月19日） 出席評議員7名 理事6名 監事2名

1. 平成27年度事業計画書（案）及び正味財産増減予算書（案）の承認
2. その他 報告事項

◇本財団顧問の佐々木正五先生が平成26年11月20日にご逝去された。享年98歳

Ⅷ. 「公益財団法人大山健康財団40年のあゆみ」の刊行

本財団が、平成26年8月8日を以て創立40周年を経過したのを記念して「公益財団法人大山健康財団40年のあゆみ」を刊行した。

以上

[附属明細書]

平成26年度事業報告書には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成27年6月

公益財団法人大山健康財団